

東京・首都圏で

大きな地震が起きたら!!

いま外国人（特に日本語に不自由を感じている人）に何を伝えたら？

防災 特集

2005/7.23(土)午後、首都圏で震度5の地震発生。13年振りの大地震に首都圏機能の脆さを露呈、多くの外国人は私たち日本人以上に戸惑い、日本語が分からないために情報の空白時間が一層大きかったのでは!?

更に大きな地震への警鐘です。

東京都では地域国際化推進検討委員会で「外国人への効果的な情報提供」が検討され、災害時等緊急時の対応を折り込んだ最終答申が平成17年7月に出されました。答申に基づき、具体的な施策の実施が期待されます。答申では、都に区市町村との役割分担を含めた行政の取り組みについてさらに具体的な計画を明示し、在住外国人向けメディア、外国人支援団体にはそれぞれ具体的な取り組みを進め、連携を深めること、その中で外国人支援団体である日本語教室や日本語学校では日本語学習教材で、防災についての知識、具体的な対処方法などを取り上げ、日本語を学びながら同時に防災知識が得られるよう望まれています。

現実的な方法

では、「防災についての知識」を日本語学習支援の場でどのように伝えられるのでしょうか。

教材として何が良いのでしょうか。学習者の日本語レベルによりどう伝えたら良

いのでしょうか。

1.防災地図・防災マップ・防災ガイドを使って学習者と一緒に話し合う。各区市では防災計画を作り、防災マップ・防災マニュアルを作成し、地域住民に印刷物で配布し、区市役所のホームページでも公表しています。

内容：①防災地図（広域避難場所等）
②避難の方法 ③地震心得10か条 ④災害用伝言ダイヤル ⑤わが家の避難場所・避難所 ⑥非常持ち出し品リスト
⑦地震が起きたら等が載っています。

2.実際に模擬地震体験や地域で開催される防災訓練などに一緒に参加する。

模擬地震体験をする

東京消防庁では都内3ヶ所の防災館を設け、無料体験ができます。

◎東京消防庁池袋都民防災教育センター（池袋防災館）

豊島区西池袋2-37-8

TEL: 03-3590-6565 FAX: 03-3590-6843

◎本所都民防災教育センター（本所防災館）

墨田区横川4-6-6

TEL: 03-3621-0119 FAX: 03-3621-0116

◎東京消防庁立川都民防災教育センター（立川防災館）

立川市泉町1156番地の1

TEL: 042-521-1119 FAX: 042-523-5119

その他の地域にも防災センターがあります。

防災に関連した印刷物・Web情報

多数の行政や機関・出版社で防災に関する書籍・印刷物が発行され、最近ではWEB上で多くの情報が得られるようになっていきます。

東京都関係では

●印刷物

「いざというとき、どうするか地震に自信を」（英語、ハングル、北京語、ポルトガル語併記）

財団法人消防科学総合センター

<http://www.isad.or.jp/>

「いざ!というときのためのサバイバル・マニュアル」

東京都生活文化局文化振興部事業推進課

<http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/index3files/survivalmanual.pdf>

●ホームページ

「地震に備えて」PDFでダウンロード（一部英文）

東京消防庁

<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/>

生活安心情報〈防災トピック〉

等も参考教材として使用出来ます。

「あなたの命を守る大地震東京危険度マップ」（朝日出版）も参考になります。

（梶村 勝利）

東京首都圏は様々な活動と生活の場です。その中には地震国日本に来て、日本語での情報や生活習慣・行動のルールが理解出来ず、生活に不安を持っている外国からの人達が各地域に大勢います。さて、こうした人達に災害時での対応を知ってもらうに

は、先ず、地域に根ざして生活している私達・日本人が自分の生活圏・活動圏の状況を知ることが必要です。日本語学習支援をしている立場から、「江東デルタの防災について」は防災について考えるキッカケになります。是非学習者と一緒に考えてみて下さい。



江東デルタの防災について

隅田川文庫 主宰

石井 貞光

はじめに

利根川の大氾濫原が東京湾に接する隅田川と江戸川に挟まれた墨東地域、その中でも隅田川と荒川（放水路）、そして頂点を旧綾瀬川で結ぶ江東デルタ（墨田区、江東区、江戸川区の平井、小松川地区）は宿命的な土地柄である。江東デルタの約3割がゼロメートル地帯である。今、人気のお台場一帯も江東デルタの一部をなしている。

過去の自然災害では関東大震災、数々の大洪水、内河川洪水。また、昭和20年3月10日の大空襲による約10万人にのぼる犠牲者を出した本所、深川も江東デルタである。

現況

この隅田川と荒川に囲まれた江東デルタには数多くの人工的運河（内河川）がある。大きな川では、北十間川、旧荒川、横十間川、大横川、小名木川、仙台堀川、豎川。これらを結ぶ小さな川、そして、これらの内河川は荒川、隅田川より水位を1メートル下げ、内河川洪水対策がされている。緊急時の物資輸送水路、渇水時の非常用水の活用が意図されてもいる。

火災対策では、古い木造住宅が密集する京島地区を抱える墨田区では不燃化住宅の促進対策の一環として建築費の一部補助金の交付を始め、隣接の江東区、江戸川区でも不燃化対策を独自に進めている。この地域は都心に近いためにマンション建設が盛んで、それにつれて都市化が進み、昔の長屋が縦に延びる長屋がふえ続けているため、下町情緒や人情は薄れてきたことが淋しい。いわゆる、ホモ・モーベンス（移動人間）がふえ、都合が悪くなると他へ移動するという定着率がどんどん下がっているのが気がか

りである。

地震対策では、火災対策と共通するものが多いが、墨田区では白鬚東地区には10万人程度の避難広場、江戸川・江東地区では小松川に旧中川と荒川を結ぶ10万人規模の防災広場もこのほど完成した。その他、江東区の猿江公園、清澄庭園、木場公園、江東デルタ東部全域に共通の荒川河川敷などが避難所となっている。約80万人が住むこの江東デルタ、果たして、大地震が来たらどうなのか、来てみないと分からないことも多い。

総合対策として、行政では管理職による年間を通した宿直制、町会を中心とした消防団組織、企業内の防災組織などによる人的防災に備えているが、区役所レベルでも地域在住者が2～3割ということで、どこまでいざという時に信頼がおけるか疑問もある。

おわりに

都市の防災対策は簡単ではないだろう。無責任人間の横行、クルマ洪水、電脳化された社会を考えるとゾッとすることが多い。戦後のキャスリン台風時の被害が万一現在の首都圏で生じたら、国の年間予算規模の被害額となるだろうといわれている。台風一つとってもこうだから、大地震や高潮など、災害の種類によっては想像するのもイヤになるほどだ。

この江東デルタに限らず、東京に住んでいる者は常にその時自分はどうするのか、覚悟している必要があるだろう。地域社会がこわれかけている東京、為政者から行政、町会、企業に至るまで、泥縄式でない事前対策を考えていないと、この世界的大都市東京の未来はないだろう。

Tel/Fax 03-3621-5877

韓国と日本の面白い発見

金 政煥 (キム チョンファン)

私が日本に来てもう7年になりました。周りの人々のお陰で日本語も少しずつうまくなり、今は日本と韓国の文化の差とか生活の差に対して興味深く調べている最中です。きっかけは“韓流ブーム”という言葉をよく耳にしたからです。それで関心が高まり、私が日本に暮らしながら感じた“おもしろい発見”などを調べることにしました。

今日は言語に対して話したいです。共通点は言うまでもなく語順であります。日本語で“私はパンを食べます。”と“ナムン パンウル モクスムニダ”という韓国語を見ると主語(ナムン)、目的語(パンウル)、述語(モクスムニダ)の順番が韓国語と完全に一致することに気が付きました。すなわち、韓国語の単語の発音を知っていれば皆さんは韓国語が少ししゃべれることは当然のことです。その上発音も似ているのがたくさんあります。

例えば鞆(カバン)、うどん(ウドン)、運動(ウンドン)、ラーメン(ラミョン)、階段(ゲダン)、微妙(ミミョ)、微笑(ミノ)等、特に漢字で“無理”は韓国も“ムリ”と発音します。これは発音だけではなく意味も一致する言葉です。そして慣用語の発想も似ています。私が日本語を習いながら感動したのは韓国語で話す言葉と同じ発想で表現すればだいたい意味が伝わるのが分かったことです。“～してみる”とい



う慣用語は韓国でも試して見るという表現として全く一致するのです。“効く”という効き目があるという言葉も韓国でも同じく“薬が効く”という風に使います。このお陰で私は日本語を習っている他の国の人より易しく学ぶことが出来ました。“ありがとう!!”

相違点はもっと面白いです。ここで少し言葉の例をあげます。言葉の順番が逆になっている単語を使っているのを発見しました。例えば、白黒テレビ、行ったり来たり、婚約、同上などの言葉は韓国では黒白テレビ、来たり行ったり、約婚、上同など全く反対の順番になっています。順番だけではなく意味も全く違う言葉もあります。最初日本に来て使ったら周りの人に変な顔で叱られたことがあります。韓国では恋人という意味で使う言葉として“愛人”という言葉があります。この言葉が日本では不倫の相手として扱う言葉だと聞きました。わたしはこの言葉の使い分けを正しく分かっていなかったのです。それ

で変な人だといわれた経験があったのです。いまはちゃんと分かっています。皆さんも注意してください。

生活しながら習ったことで一番面白かったのはやっぱり擬態語と擬声語、特に動物の鳴き声です。笑う時の擬態語として使っている“にっこり”がありますね。韓国では“ビングレ”です。これは顔の口がスマイルの形になっているのを表す言葉です。そして、“にこにこ”は“シングルボングル”、“くすくす”は“キクキク”、“アハハ”は“ハハハ”などがあります。笑う顔などを現すさまざまな擬態語、擬声語も確かに差がありますね。そして動物の鳴き声、これを習った時、“やっぱり国が違うと動物の鳴き声も違うんだな～”と感じて本当に面白かったです。日本では犬は“ワンワン”猫は“ニャ～ンニャ～ン”と鳴きますね。でも韓国では“モンモン”、“ヤオンヤオン”と鳴くのです。もっと調べるとカエルは“ケロケロ”、“ケグルケグル”豚は“ブーブー”、“クルクル”、牛は“モーモー”、“ウムメーウムメー”と違うのです。違う国の動物たちもお互いに言葉の勉強が必要ですね。

続けてしらべると両国の事もよく分かると思います。韓国と日本の人々が二国の良さを工夫しながら頑張っていくと世界でもっとも素晴らしい国を作ることが出来ることを信じながら以上終わらせて頂きます。

学齡期外国籍児童生徒の 日本語支援について



十年ほど前のこと、東京日本語ボランティア・ネットワークの事務局に小学校の校長先生が相談にいらしたことがあります。外国人の子どもが入学してきて日本語がわからず困っている、日本語ボランティアを紹介してほしい、とのことでした。とりあえず、その学校の近くで活動している団体を紹介しましたが、それで良かったのか疑問が残りました。

その後、公立小中学校に通っている外国籍の子どもたちの日本語指導について、地域によって異なるも、日本語学習指導員をつける数十時間分の予算がつくようになってきました。なお、予算がついたといっても、時間数は不十分で、また、子どもたちに第二言語としての日本語を教える専門家が少ないところから、その

地域の日本語ボランティア団体が日本語指導員（日本語ボランティア）の派遣を依頼されることが多いようです。対象を子どもたちに限って、日本語を教える研究をしながら支援している団体もわずかながらありますが、その他ほとんどの団体は支援する対象の大部分が大人ですので、学校教育の中での日本語指導を任せられるとなると不安があります。ある日本語ボランティアは、「学校での日本語補習を引き受けているが、自分は親代わりとして支援し、生徒側も悩み事の相談相手として頼ってくれる。しかし、これで授業についていくための日本語指導は十分だと思われては困る。それは専門の先生がついて十分に指導してほしい。」とっています。

このように日本語ボランティアが支援できることがあるのは明白です。しかしながら、日本語ボランティアが力の及ばない分野までやむを得ず引き受けてしまうことで、子どもたちが当然の権利として受けられるはずの日本語教育の機会を奪ってしまうことになるのではないかと懸念されます。

日本語ボランティアは、学齡期の外国籍児童生徒のために何ができ、また何をすべきか、日本語学習支援活動をされている皆さまにご協力を仰ぎ、調査検討していきたいと思えます。ご意見、ご提案をお待ちしております。

(林川 玲子)

TNVNのホームページに ニュースレターの記事を紹介します

TNVNはニュースレター（紙面）とホームページ（WEB）、及び会員のメーリングリストで情報提供を行っています。

昨今はWEB上で様々な情報が即時・

広範囲に発信され、世界各地で多数の人々がその情報を容易に得られるようになっています。TNVNのホームページにも毎日多数のアクセスがあり、日本語ボランティア活動に関心のある多数の方々から問い合わせがあります。

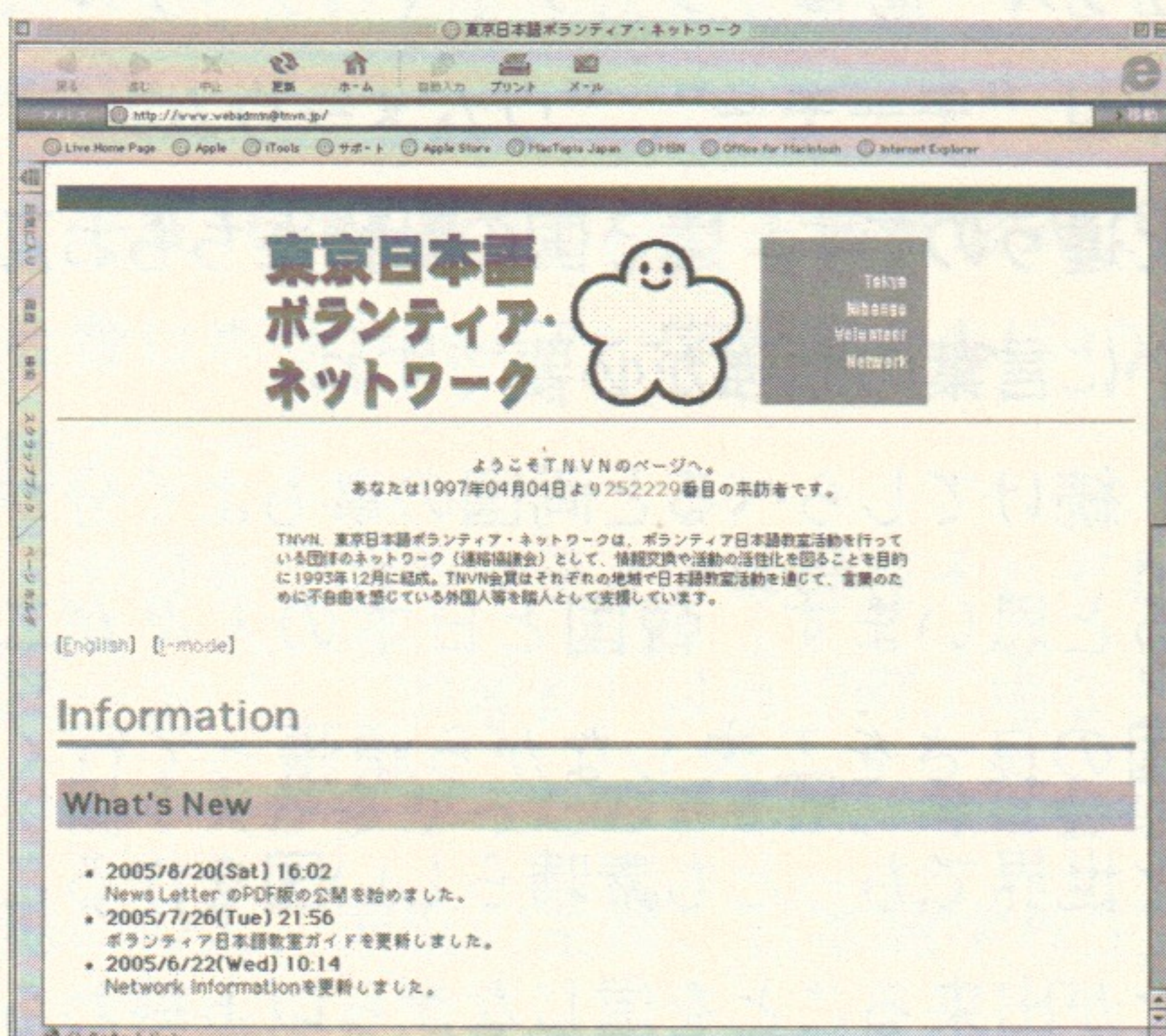
日本語ニュースレターは現在、年間4回（3ヶ月毎）に編集・発行していますが、こうした中でニュースレターの記事からTNVNの活動や日本語ボランティア活動に関する内容の一部を選びホームページにPDF形式で掲載し、広く日本語ボランティア活動に関心のある方々が閲覧

出来るようにいたしました。

また、今後は会員の皆さんにはご希望に応じ、ニュースレターの全文（PDF形式）をメールで配信することを考えています。

なお、ホームページには ①はじめに ②News Letter より ③掲示板 ④ボランティア日本語教室ガイド のコーナーがあり、②「News Letter より」のコーナーに掲載します。TNVNのホームページで内容を確認下さい。

皆様からのご意見・ご感想をお待ちしています。



ネットワ-ク紹介

新宿日本語ネットワーク

梶村 勝利 (早稲田奉仕園日本語ボランティアの会/新宿区)
hfh01663@nifty.com



新宿日本語ネットワークが誕生

～新しい出会いと展開が期待されます～

●発足……………

新宿区で活動をしている日本語ボランティアグループ5団体(*1)が2005年2月28日、新宿文化・国際交流財団(以下:財団)の声かけ、「日頃の活動で、同様の目的を持って活動をしている他の団体の方々と率直な意見交換・情報交換をして下さい」で集まり、6月20日の会議で名前を「新宿日本語ネットワーク」(略称:SNN)とし交流を始めました。

SNNは日本語ボランティアグループに限定せず、日本語に関連する活動を通して外国人と関わりのある団体、外国人のグループ、及び個人、等に広く参加を呼びかけ、日本語支援に関する交流・情報交換、討議を進める事となりました。

●活動の始まり……………

新宿区では、日本人と外国人の交流を推進し、文化や歴史等の相互理解を深める場として「しんじゅく多文化共生プラザ」(以下:共生プラザ)が9月1日にオープンしました。「共生プラザ」の中に「日本語学習

コーナー」(日本語リソースコーナー(*2))が併設されるので、財団はSNNに日本語学習コーナーの準備協力を要請しました。

これを受けて、今SNNのグループは準備委員を出し「日本語学習コーナー準備会」を発足(6月13日)、①コーナーに備える日本語学習用の教材・資料等の検討 ②日本語学習コーナーの企画・運営の2点に絞り検討を進めています。

日本語学習コーナーが開設されてから、SNNのメンバーが日頃の日本語学習支援活動とあわせ日本語学習コーナーにどの程度関われるかとの基本的な課題を抱えています。この日本語学習コーナーが日本人と外国人との交流・情報交換、また日本語学習のニーズに応えられる場となる事を期待しています。

●新宿はこれから……………

新宿はご承知の通り、都庁、ビジネス、商業、学校などと多数の機関が集まり、JR・地下鉄・私鉄・バスのターミナルとしてなどの交通機関で昼夜を問わず多くの人々が行き来しています。

東京都の外国人登録人口は370千人、その内新宿区は30千人で、特に大久保地区は多くの外国系の飲食店が軒を連ね、活況を呈しています。

こうした環境下で新宿区は上記の「共生プラザ」を設置し、日本人・外国人が住民として交流をし、お互いを理解する街づくりを呼びかけています。

日本語でのコミュニケーションが不自由な外国人はもとより、交流や相談その他を希望する方々が気軽に訪れられる場所(日本語学習コーナー)は外国人はもとより日本人にとっても有意義な存在となるでしょう。こうした中で新しく日本語学習支援のネットワークが新宿に誕生した事は非常に大きな意義があります。でもスタートに立ったばかりです。

SNNがどのように発展していくか。こころ有る人々の努力と協力が要請されます。

そして「日本語学習コーナー」を拠点として行政との連携が深まることを強く望みます。

これら一連の動きに関わった立場で「新宿日本語ネットワーク」を紹介しました。

(*1) あげぼの会日本語教室、四谷日本語サークル、新宿虹の会、SJC日本語教室、早稲田奉仕園日本語ボランティアの会の5団体 その後、東京YMCA山手インターナショナルボランティアズ、CCS新宿教室 が加わり現在7団体です。

(*2) 日本語リソースコーナーとして
①愛知県国際交流協会・日本語教育リソースルーム
②北海道日本語教育ネットワーク・日本語教育リソースセンター
③長野県・日本語学習リソースセンター
④神戸市立港島小学校・リソースルームが「地域日本語学習支援の充実」文化庁編で紹介されています。



nice to meet you

小さな教室・大きな交流

東村山地球市民クラブ

日本語委員会委員長 川村弘史（東村山市）

東村山日本語教室（正式名は東村山地球市民クラブ 日本語委員会）は7年目を迎えている。場所は市民センターの一角をかりている。水曜日だけの教室が、3年目には土曜日にも開講した。スタッフは約30名、学習者も大体同数。1対1方式。学習者の出入りは結構激しい。

学習者は多様化しており、画一した授業はできない。学習者がくると最初にどんな日本語を学びたいのかをゆっくり、丁寧に聞き取る。それによって勉強する

内容を変えている。「学習者カルテ」をつくりペアが変わっても対応できるようにしている。

スタートした時はスタッフも素人の集まりであったが、この6年間に日本語教師専門課程を履修した人が、今在学中の人を含め10名になった。毎月勉強会をしたり、年1回は外部講師を招いたりして、研修会を行っている。日本語の勉強だけでなく、ゴミの分別、救急・救命講習会や日本語教室開講記念や納会のパーティーなども行っている。学習者が辞める時の挨拶の中で、「日本語学校では学べなかったことを教えてもらった。この教室



にきて日本についての印象が変わった。」という謝辞はスタッフに感銘を与えた。

スタッフは全員がなんらかの役割を分担している。極めて責任感が強く、献身的である。教えることは学ぶことであり、共育（共に育つ）精神の旺盛なかがたである。いろいろ問題は山積しているが、行政とも連携・協働して外国籍市民がこのまちで平等に、平和に暮らせるよう力をあわせて頑張っている。

会員団体紹介

Nice to Meet You

生まれ育った場所は東京・葛飾の文化会館（シンフォニーヒルズ）別館

平成9年に葛飾区国際交流課（現葛飾区文化国際財団）主催の「日本語ボランティア養成講座」受講生がTIJ日本語研修所の指導で翌年3月まで実習、平成10年4月から日本語教室を始めました。

運営方法、学習方法についてはすでに自主運営していた「アジアと交流する市民の会」をお手本に教室をスタートさせました。

平成16年4月からは自主運営形式で、会費はボランティア、学習者ともに100円/月です。

学習者、ボランティアは現在それぞれ25～30人、「学習者」は当初町工場などで働く人が多かったのですが、今は会社勤めの人、家庭の主婦、日本語学校生、小・中学生もいます。

「ボランティア」は家庭の主婦、会社勤めの人、学校の先生、学生、会社勤

nice to meet you

友だちになろう！

木曜日の日本語教室

深谷 操（葛飾区）

めを終えた人、日本語能力試験1級合格者で長年日本に住んでいる人等がいます。

勉強方法は、学習者のレベルや学習目的（生活の日本語、職場でのコミュニケーション、日本語能力試験合格→就学、就職）が違う等の理由で、1対1でする場合、ボランティア1人で数名の学習者を持つ場合もあります。

問題点は、学習者もボランティアも出入りが激しく、理由として学習者は「教えるボランティアが毎回違う」、「新しいボランティアとは気持ちを通じ合わない」、「勉強したいが、続けるのはつらい」、「仕事も忙しいし、生活会話が少し出来るだけでいい」、「ビザが切れた・仕事が無くなった・転勤になった」等があります。

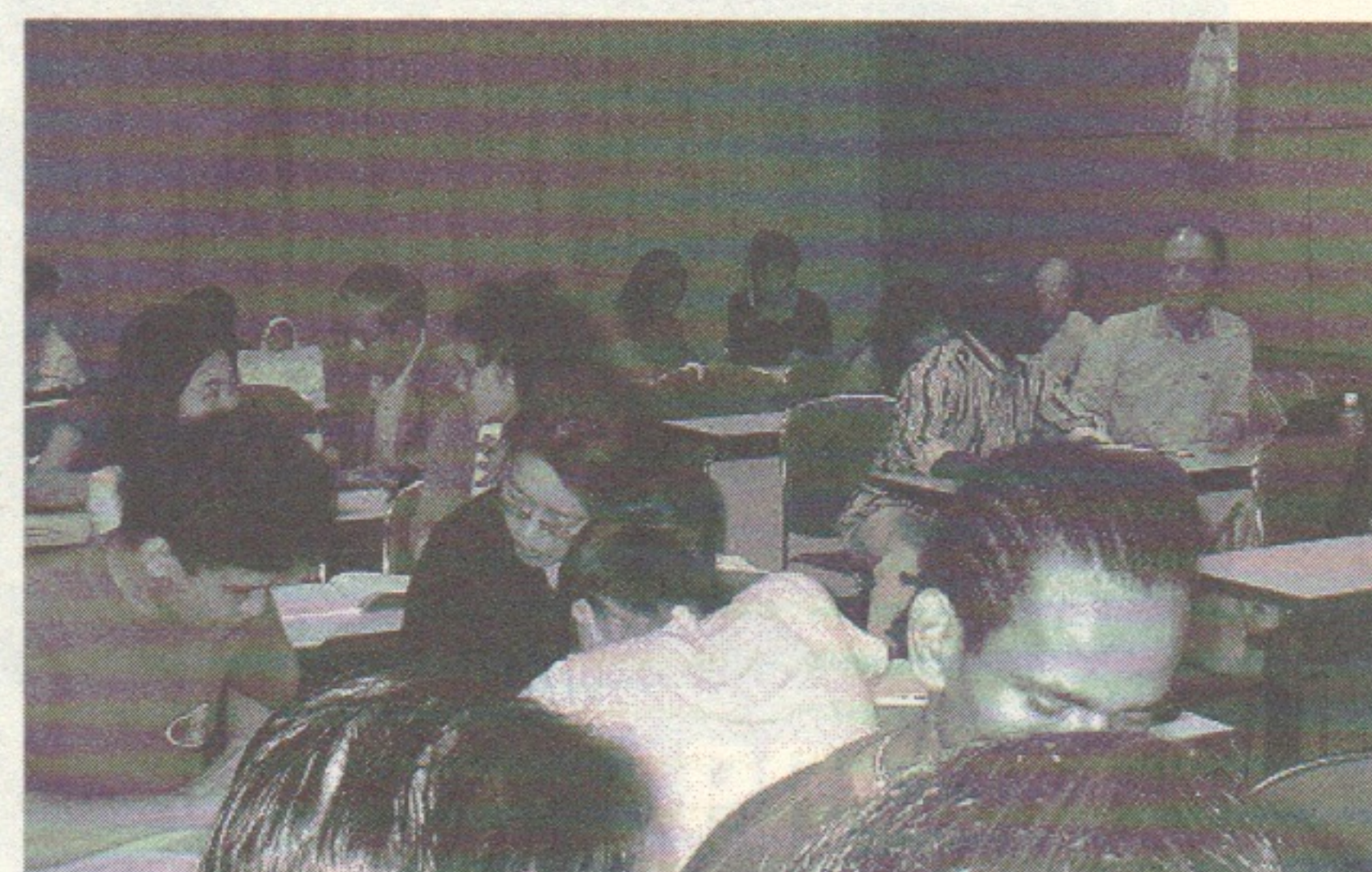
ボランティアは「養成講座は受けたが、他にすることが沢山ある」、「イメージが違う」、「仕事や家庭の都合でできない」等があります。

対策として学習者もボランティアも登

録カードを作り、裏面にいつ、誰と、何を勉強したかを簡単に書いてもらい、前回とのつながりをつけます。

行政には広報等で各日本語教室の紹介、ボランティアの募集、養成講座の継続をしてもらいます。

今年のイベントは2月に葛飾区の「国際交流の集い」に参加し、自国紹介と民族衣装を披露しました。4月は水元公園で「お花見パーティー」、6月は「バーベキュー大会」、7月は「柴又花火大会」に参加、12月の最終日は「一人一品持ち寄りパーティー」で、楽しくその年を終えます。



学習者の声

ビバ日本人！

ヴァルデック・ダブコスキ
 オーストラリア
 ビバ日本語教室白金台



10年前に文部省奨学金で名古屋大学へ来ました。しばらくして、それまでオーストラリアで本から習っていた日本語は、とても役に立つものではないと気づかされました。私はもっとよい方法を見つけました。すぐに何人かの日本人の友達を作り、彼らが行くあらゆる社交的な場所へ一緒に出かけていきました。教室で学ぶよりも友達とビールを飲みながら日本語を学ぶほうがより集中的で、より楽しかったです。

名古屋で日本人女性と結婚し、修学後オーストラリアへ戻りました。彼女は英語を学んだので、私の日本語はだんだんと悪くなりました。昨年日本に戻り、日本語が使えないと東京での生活におけるあらゆる機会が小さくなるばかりか楽しいものではないと強く感じました。

私はそれまでずっと太鼓に興味があったので、八丈太鼓グループに入りました。6

ヶ月ほど続けていてとても楽しんでおり、時々生活の重要部分になります。英語教師として働くことを決めたときも、金曜日と日曜日に働くことは断りました。それはその曜日に太鼓の練習があるからです。

また火曜日と木曜日の朝も働くことを断りました。それはその曜日にもうひとつの楽しくて重要な活動があるからです。火曜日と木曜日には2つの場所でボランティアの日本語クラスをとっています。そしてその会話クラスのおかげで、たった8ヶ月続けただけなのに毎日もっとももっとよく理解できるようになっています。居酒屋で酒を飲みながら日本語を学ぶことをおけば、日本語会話クラスは日本人が毎日の生活の中で使う日本語を学ぶために最もすばらしく、楽しいところです。まだまだ道のりは長いですが、がんばっていきます。

ボランティアの声

佐藤智代子
 アジアの女性たちの会・立ち寄りサポートセンター「町屋日本語教室」

「同じ釜のめし」が
 キホンです

●教室をつくったときのしたごころ

「町屋日本語教室」の名称は、実は長い。その名のとおり、滞日アジア女性をサポートするグループが15年前に始めた。

日本人男性と結婚したアジア女性の中には、ささいな言葉の誤解から離婚問題にまで発展するケースも。字が読めずに、離婚届と知らずサインさせられた女性もいた。そういう彼女たちの日本社会でのサバイバルを語学学習からサポートするのがねらいだった。

勉強には来ないがイベントには現れる生徒さんたちにしてみれば、なにかのときに相談できる「保険」のような教室なのかも。

●『生活漢字306』のしたごころ

学習内容は、生徒さんの要望に応じて生活密着型。子どものいる定住者が多く、特に非漢字圏の生徒さんは「漢字」を覚えたがった。ところが、フィリピン女性たちは継続的に来ない！そこで自習もでき、いつ教室に来ても好きなのところから勉強できるカリキュラム無視の漢字テキスト

『生活漢字306』（タガログ語・英語版）をつくった。これがありがたくもよく売れて、収入が安定した。相談活動の経費、生徒さんへの貸し出し、イベント経費の補充、教材購入など、フルに役立っている。

●いっしょに食べることのしたごころ

よその日本語教室の関係者に聞いてみると、けっこうボランティア・生徒間の付き合いはないらしい。

私たちは2時間の個別レッスンのあと、必ずお茶とお菓子で談合。全体レクチャーや新入生の自己紹介、意見発表など。それがねらいではないが、お国の食べ物を持ってきてくれる生徒さんも。年に1～2度は遠足や一泊旅行に出かけるし、地震体験の消防署見学もあり、「飲み」もあり。最近はIT産業で働く生徒さんが増え、高度な学習内容の要望にボランティアはたじたじ。でも、勉強だけよりも「同じ釜のめし」のつきあいのほうが、語学学習には効果があるようなのだ。お試してください。

csato@uls.co.jp

NETWORK INFORMATION

TNVN会員のための メーリングリスト(ML)に ご参加下さい

.....
 会員メンバーが相互に情報交換をする場や、各地で色々な講演会、研修会、催し物などの情報を共有するために、TNVNではML: tnv-all@freeml.comを作り、ネットワークとしての機動性を高めるようにしています。参加されるメンバーを"e-member"とします。"e-member"には正会員(団体)、協力会員(個人)、正会員団体で活動しているメンバーにご参加をいただきます。現在、正会員49団体、協力会員14名の方々がMLを活用されています。まだMLに参加されていない団体会員(正会員、賛助会員)の皆様、会員団体で活動されているボランティアの方々に、MLへの参加をお願い致します。

MLへの参加をご希望される方は団体名、氏名、メールアドレスをTNVNアドレス: webadmin@tnvn.jpまでご連絡ください

TNVNへの入会をお待ちしています

.....
 詳細はTNVN事務局まで「活動・入会案内」を郵便でご講求下さい。(送料90円切手同封)

TNVNスタッフ募集!!

.....
 TNVNの事務局スタッフ・ニュースレター編集員となってTNVNスタッフと一緒にボランティアでご協力いただけませんか。TNVN事務局までご一報をお待ちしています。

ニュースレターの記事大募集!!

.....
 ニュースレター編集担当までご連絡下さい。

文化庁日本語教育大会に参加して

例年通り真夏の8月3日、4日の2日間東京世田谷の昭和女子大で「文化庁日本語教育大会」があり、多数の参加者に混じってTNVNスタッフも加わりました。

テーマは「外国人年少者への支援について考える ～子を持つ親への日本語学習支援～」ですが、子どもの学習環境づくりは親の理解に掛かっています。

第一日目の事例発表「私と家族の日本語学習について」(高榕輝さん)と二日目の地域日本語教育シンポジウム「日本語が必要な子

供たちへ私たちが出来ること～周囲の大人の連携の実現に向けて～」の3人の外国生まれで現在日本で活躍されているパネリストの報告に、多くの教えられることがありました。

そこには皆さん積極的な日本語習得への熱意・人生への意欲が滲み出ていました。

自信を持たせてくれる指導者・ボランティアにより、夢・目標が生まれ、またコミュニケーション・居場所の大切さ、そして子供の将来を考える親のサポートも欠かせないなどが話されていました。

事務局便り

今年度初めてスタッフの一員として、編集に参加させていただくことになり、事務局の仕事をしつつ覚えているところです。

7月23日、「震度5」を記録した東京の地震のその時、私は連れ合いと夕方の散歩に出掛けていました。突然の揺れに連れ合いはビックリして、しばらく私にしがみついていた。(私も驚きました)

散歩は、土曜、日曜は朝・夕行っていますが、その途中に大きな公園があり、早朝、公園の広場では(中国籍)と思われる人達を中心となって、法輪功や太極拳が行われています。

法輪功は少数人ですが、太極拳は30人前

後の参加者(ほぼ日本人)がいます。太極拳の手ほどきをされている先生(中国籍)は、かなり年配の方とお見受けしました。すでに6年間行なわれていて、少しずつ参加者が増えたそうです。

法輪功や太極拳等、つい1年ほど前までは、街中で見掛けることのなかった光景です。在住外国人の方々の地域における定住化が着実に浸透している一つの現れと感じられました。

と同時に、各地域における在住外国人の方々への「防災」関係をはじめとする、情報提供活動の重要性が増してきていることも考えさせられました。(い)

東京日本語ボランティア ネットワーク事務局



TNVN東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日

第1、第3、第5 金曜日/午後2時～4時
 第2、第4 金曜日/午後2時～6時

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
 JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線一出口B2b)飯田橋駅下車
 セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
 東京ボランティア・市民活動センター
 メールボックス No.4

●TEL: 03-3235-1171

(呼出: 金曜日活動時間帯のみ)

●FAX: 03-3235-0050

●E-mail: webadmin@tnvn.jp

●URL: http://www.tnvn.jp/

●郵便局払込

口座番号: 00100-1-719259

加入者名: 東京日本語ボランティア・ネットワーク

●新会員紹介

正会員/日本語サークル「くりはら」
 協力会員/大場 隆、土井 宏平
 中山 真理子

●会員数(2005年8月15日現在)

正会員: 77団体 協力会員: 63名
 賛助会員: 5団体

●編集/岩佐 幹彦、大木 千冬

岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利

床呂 英一、西岡 暉純、林川 玲子

●レイアウト/鶴田 環恵